

O52-4 個人有床産科クリニックから転院になった妊産婦の検討

今井産科婦人科クリニック

今井公俊

【目的】 常勤産科医が一人である個人産科クリニックで妊娠初期に分娩予約した妊婦がその後どれ位の頻度及び如何なる疾患で高次施設に紹介・搬送されたかを明らかにする。

【方法】 2004年1月から2024年3月までの20年3ヶ月間にlow-riskと判断して妊娠初期に分娩予約した妊婦の転帰を後方視的に検討した。当院では多胎、妊娠36週未満の分娩は扱っていない。

【成績】 この間当院での妊娠22週0日以降の分娩数は初産3563人経産4185人合計7748人であった。医学的理由で高次施設に紹介・搬送した妊婦は初産261人経産186人合計447人であり、分娩予約した妊婦の5.5%に該当した。初産は経産に比して紹介・搬送が有意に多かった($p < 0.001$, OR1.65)。紹介・搬送の内訳は初産経産の順に、切迫早産前期破水102人80人、前置・低置胎盤25人28人、胎児発育不全(FGR)21人17人、妊娠高血圧症候群64人18人、胎児異常14人9人であった。転院後当日又は翌日分娩となったのは初産80人経産52人で、そのうち帝王切開が初産53人経産28人であった。分娩後に搬送となった妊婦は初産12人経産7人合計19人であった。そのうち大量出血が7人、胎盤娩出不能が7人で、体外受精胚移植(ART)妊娠では非ART妊娠に比して胎盤娩出不能症例が有意に多かった($p < 0.001$, OR33.9)。

【結論】 妊娠初期にlow-riskと判定しても一定数の妊産婦がhigh-riskとなり高次施設への紹介、搬送が必要であった。